【総括表】

用途	社会教育施設

1 対象施設

本個別施設計画での対象施設は、次に示す施設とする。

	施設名	所在地	基本的な方針	摘要
1	地域文化広場	西田町	現状維持	
2	豊田市自然観察の森	東山町	現状維持	
3	とよた科学体験館	小坂本町	大規模修繕	豊田産業文化センター内
4	平戸橋いこいの広場	平戸橋町	現状維持	
5	環境学習施設「eco-T(エコット)」	渡刈町	現状維持	
6	豊田市交通安全学習センター	池田町	現状維持	

2 計画期間

2021 年度から 2026 年度までの 6 年間とする。

3 目標使用年数

目標使用年数は57年以上とする。

ただし、他施設との合築・複合化・機能集約の必要が生じた場合は、総合的に判断する。

4 対策の優先順位の考え方

当該施設は、市民の学習や交流、ふれあいの場として年齢を問わず多くの市民が日常的に利用しており、安全・安心や衛生的な施設環境が求められる。また、時代のニーズ等に応じて施設・設備等を改修する必要があり、施設の老朽劣化や点検・診断結果等を踏まえ、財政負担の平準化等も考慮しながら、計画的に検討する。ただし、施設運営や安全・安心に関わる対策は優先順位を上げて対応する。

Ī

1 施設の概要 (2019年3月31日時点)

所在地	西田町	延床面積	7,094.65 m
-----	-----	------	------------

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積(㎡)	階数	備考
けやきホール	RC造	1980	2,633.96	2階	
機械室	RC 造	1981	221.00	1階	
体育館	RC 造	1981	1,698.30	1階	
プール	RC 造	1981	1,418.32	1階	
柔道場	RC 造	1981	481.41	1階	柔道場、ホール、渡り廊下
更衣室	RC 造	1981	312.00	1階	
茶室	W 造	1983	95.19	1階	
プール更衣室	S造	2004	234.47	1階	

2 個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等

地域文化広場は、2004年に新築されたプール更衣室以外が建築後30年程度経過しており、ひび割れ等の経年による劣化現象がみられるが、屋上外壁について目視上は概ね健全な状態である。

3 対策内容と実施時期

(1) 基本的な考え方

①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の3つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。

(2)取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。

☑:1) 点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

各種点検(日常点検、保守点検、法定点検等)の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方(予防保全、事後保全)、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。

☑:2)施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合(機能の集約化・複合化)や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。

☑:3) 民間活力の導入による事業推進や運営改善

(現在の導入状況)

指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

(今後の考え)

引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑:4)施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、期費用(イニシャルコスト)だけでなく維持管理等費用(ランニングコスト)を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

(3) その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4 対策内容(計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築等)

2 施設名 豊田市自然観察の森

1 施設の概要 (2019年3月31日時点)

所在地	事 山町	延亡而建	1001 70 m² 1/1
1 別1生地	東山町	進床側傾	1991.78 m ※1

※1 トンボの湿地便所を除く

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積(㎡)	階数	備考
展望台	W造	1988	34.50 m	1階	
バッタの小屋	W造	1988	25.00 m	1階	
標本資料館	S造	1989	439.20 m	2 階	
カブトムシの小屋	W 造	1990	24.48 m	1階	
トンボの湿地便所	S造	2001	6.35 m	1階	撤去済
ネイチャーセンター	S造	2010	1322.45 m	2 階	
便所(駐車場)	RC 造	2010	31.82 m	1階	
カワセミの小屋	W 造	2010	36.96 m	1階	
寺部池観察デッキ	W 造	2010	45.70 m	1階	
矢並湿地休憩所	W造	2010	31.67 m	1階	

2 個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等

標本資料館は、建築後30年経過しており、建物本体については建具破損等の経年による劣化現象がみられ、設備については更改済みの一部空調設備を除いてほとんどの設備に経年による劣化現象がみられる。

ネイチャーセンターは、建築後10年を経過しており、建築物本体については防水材の劣化等による雨漏りがみられる。また、設備については空調設備等に劣化による不具合がみられる。

その他小規模な木造建築物は、各部の汚れや固定金物の錆などの経年による劣化現象がみられる。

※トンボの湿地便所は撤去済ため対象外とする。

3 対策内容と実施時期

(1) 基本的な考え方

環境学習の拠点施設の1つであり、利用者ニーズへの柔軟な対応が必要であることから、①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の3つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。

(2)取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。

☑:1) 点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

各種点検(日常点検、保守点検、法定点検等)の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を適正に把握する。また、部位ごとの保全の考え方(予防保全、事後保全)、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。

その他施設の修繕・更新については、年次計画表等を基に、優先順位等を踏まえて、実施の検討を行う。

☑:2)施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進施設の更新時期にかかわらず、必要に応じて統合(機能の集約化・複合化)や廃止を行い、総量抑制の取組みを進める。

☑:3) 民間活力の導入による事業推進や運営改善

(現状の導入状況)

指定管理者による施設の運営維持管理を実施。

(今後の考え方)

維持管理および運営に引続き民間(指定管理者を含む)等の有する資金やノウハウを活用する PFI 事業や民間企業・NPO・住民等の多様な組織との共働を推進し、効率的な施設運営に努めるとともにコスト縮減を図る。

☑:4)施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、照明 LED 化など、既存 設備よりメンテナンス頻度の低い設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検 討し、初期費用(イニシャルコスト)だけでなく維持管理等費用(ランニングコスト)を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

標本資料館は、今後の利用目的に応じた内装改修等を実施し、施設の利便性向上および有効活用に努める。

(3) その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4 対策内容(計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築等)

3	施設夕	とよた科学体験館
5	一心政力	こみに付于仲拠時

1 施設の概要 (2019年3月31日時点)

所在地	小坂本町	延床面積 1,128.40 ㎡	
-----	------	-----------------	--

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積(㎡)	階数	備考
ホール	SRC 造	1985	1,128.40	地下1階	産業文化センター内

2 個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等

とよた科学体験館ホールは、1985年に産業文化センターの建設と同時にオープン し、建築後35年程度の施設である。

平成29年度よりワークショップルーム2および準備室(倉庫)において、浸水が 度々起こっている。

※施設全体の状況は産業文化センターの個別表による

3 対策内容と実施時期

(1)基本的な考え方

①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の3つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。

(2)取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。

☑:1) 点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

各種点検(日常点検、保守点検、法定点検等)の観察により、施設の劣化状況や 修繕の緊急度を把握する。また、部位ごとの保全の考え方(予防保全、事後保 全)、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施するこ とにより安全性を確保する。

☑:2)施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

今後の人口減少や少子高齢化の進展等による施設利用者の減少や利用ニーズの変化に対応していくため、必要に応じて統合(機能の集約化・複合化)や廃止を行い、総量抑制の取組みに努める。

☑:3) 民間活力の導入による事業推進や運営改善

(現在の導入状況)

指定管理者業務の導入による運営品質の向上、コストの縮減を図っている。

(今後の考え)

引続き指定管理者業務の推進を行いコストの縮減を図っていく。

☑:4)施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、期費用 (イニシャルコスト) だけでなく維持管理等費用(ランニングコスト) を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

具体には、照明器具の LED 化や更新に合わせた各設備機器の機能改善(高効率化)を実現し、電力負荷等の低減を図ることで、更新周期の長期化・光熱水費の削減などによるランニングコストの縮減と温室効果ガス(CO2)の排出削減を進める。

(3) その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

改修にあたっては、利用者への影響を最小限とするため、施設の休館期間の最小化など考慮する必要がある。

4 対策内容(計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築等)

4 施設名 平戸橋いこいの広場

1 施設の概要 (2019年3月31日時点)

所在地	平戸橋町	延床面積	627.18 m ²
//I II-	1 / IIII - J		027110111

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積(㎡)	階数	備考
平戸橋いこいの広場	RC 造	1981	627.18	2 階	

2 個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等

平戸橋いこいの広場は、貸館施設として利用。平成26年3月には、延命化工事で防水修繕、外壁修繕、塗装修繕を実施しているが、建築後40年を経過し、空調機や高圧受電設備、浄化槽等の設備には、更新や大規模修繕が必要な劣化、損傷が見られる。

3 対策内容と実施時期

(1) 基本的な考え方

①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の3つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。

(2)取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。

☑:1) 点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

各種点検(日常点検、保守点検、法定点検等)の観察により施設の劣化状況や修繕の緊急度を把握する。

口:2)施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

☑:3) 民間活力の導入による事業推進や運営改善

(現在の導入状況)

指定管理を導入

☑:4)施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

設備の更新にあっては、水銀灯を撤去し、省工ネ効果の高い照明のLED化を図り維持管理費用(ランニングコスト)の削減に努める。

(3) その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

貸館施設のため、緊急な修繕の発生などで利用停止となった場合、指定管理者に不利益が生じるおそれがあるため、現状を踏まえ、計画にとらわれず、早期に修繕・更新を行っていく必要がある。

4 対策内容(計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築等)

5 施設名 環境学習施設「eco-T(エコット)」

1 施設の概要 (2019年3月31日時点)

所在地	渡刈町	延床面積	2080.83 m
1 / / I I I I I	"Z' '.' '.' '.' '.' '.' '.' '.' '.' '.' '	~/\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	2000100 111

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年	延床面積(㎡)	階数	備考
eco-T	RC 造	2007	2080.83	4階	

2 個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等

eco-Tは、建築後12年経過しており、建築本体および設備機器は概ね健全な状態であるものの、建物本体には一部に劣化現象や漏水跡がみられる。

3 対策内容と実施時期

(1) 基本的な考え方

①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の3つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。

(2)取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。

☑:1) 点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

各種点検(日常点検、保守点検、法定点検等)の観察により、施設の劣化状況や修繕の緊急度を適正に把握する。また、部位ごとの保全の考え方(予防保全、事後保全)、部位ごとの耐用年数に基づき、費用対効果を踏まえた上で修繕を実施することにより安全性を確保する。

直近では特に、換気設備・給湯器・誘導灯・自動ドアについて設備更新や修繕の 実施を検討する。

☑:2)施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

隣接する渡刈クリーンセンター(焼却施設)の30年の運用計画に合わせて、統合(機能の集約化・複合化)を行い、市民が環境学習できる施設として有効活用の取組みを進める。

☑:3) 民間活力の導入による事業推進や運営改善

(現状の導入状況)

行政・NPO 法人・市民ボランティア(インタープリター)による三者共働で事業運営をしている。

(今後の考え方)

三者共同による事業運営を継続して実施するとともに、より効率的な施設運営を 検討しコスト縮減を図る。

☑:4)施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

太陽光発電設備は子どもたちへの教育材料のために設置している設備であり、実際の施設運営のための電力エネルギーは、同一敷地内にある焼却施設稼働時の火力発電で十分まかなえている状況である。

設備の更新にあたっては、費用対効果を考慮した上で、照明 LED 化など、既存 設備よりメンテナンス頻度の低い設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検 討し、初期費用(イニシャルコスト)だけでなく維持管理等費用(ランニングコス ト)を含めた総合的な費用であるライフサイクルコストの低減に努める。

(3) その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4 対策内容(計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築等)

6 施設名 豊田市交通安全学習センター

1 施設の概要 (2019年3月31日時点)

所在地	池田町	延床面積	4,170.82 m
//III	/C	~//NHI	1/±/ 010 2 111

建築物棟別

棟別名称	構造	建築年度	延床面積(㎡)	階数	備考
1.交通安全学習館	S造	2010	2,707.23	2 階	
2.学習ホール	S造	2010	356.27	1階	
3.工業地域内トイレ	S造	2010	23.00	1階	
4.工業地域内倉庫	S造	2010	62.59	1 階	
5.休憩所	S造	2010	154.03	1階	
6.模擬住宅	S造	2010	87.65	1階	
7.広場ゾーン内トイレ	S造	2010	38.47	1階	
8.見学スタンド	S造	2010	134.26	1階	
9.管理室自転車倉庫	S造	2010	134.27	1階	
10.乗り場上屋	S造	2010	185.00	1階	
11.カート自転車倉庫	S造	2010	164.51	1 階	
12.列車倉庫	S造	2010	81.54	1 階	
13.駐輪場上屋	S造	2010	42.00	1 階	

2 個別施設の状態等

施設の劣化・損傷の状況や要因、過去の対応状況等

豊田市交通安全学習センターは建築後10年を経過している。PFI事業において、計画的に更新・修繕工事を行っている。現状では大きな劣化・損傷は発生していない。

3 対策内容と実施時期

(1) 基本的な考え方

①安全・安心な施設管理、②トータルコストの縮減、③施設の有効活用の促進の3つを柱とした取組を総合的に推進し、将来の施設更新や維持管理に係るトータルコストの縮減・平準化を図る。

(2)取組方針

以下、取組として該当する項目にチェックを入れ、具体的な内容を明記する。

☑:1) 点検の実施、施設の修繕・更新による安全性の確保

各種点検(日常点検、保守点検、法定点検等)の観察により、施設の劣化状況や 修繕の緊急度を把握する。

点検結果、耐用年数を踏まえた適正な修繕により安全性を確保する。

口:2)施設更新に伴う複合化・集約化、余剰空間の用途転用等による活用促進

☑:3) 民間活力の導入による事業推進や運営改善

(現在の導入状況)

平成22年度から維持管理及び運営に民間の有する資金やノウハウを活用するPFI事業を進めている。

(今後の考え)

維持管理及び運営に民間の有する資金やノウハウを活用する P F I や民間企業・ N P O・住民等の多様な主体の参画・連携を促し、行政と民間との協働により最も 効率的に公共サービスの提供を行う P P P 等の導入を積極的に検討し、効率的かつ 効果的な施設運営に努めるとともに、コスト縮減を図る。

☑:4)施設の機能向上による利便性向上や、ランニングコストの縮減

省エネ効果の高い照明の L E D 化など、既存設備よりもメンテナンス頻度の少ない設備やエネルギー消費量の少ない設備に更新を検討し、初期費用(イニシャルコスト)だけでなく、維持管理を含めた費用(ランニングコスト)の縮減に努める。

(3) その他、対策を実施する際に考慮すべき事項

4 対策内容(計画期間内の保全、機能向上、建替え・増築等)